

研究活動・教育向上委員会主催 「新型コロナウイルス感染拡大に伴う実習等の対応に関する情報交換会」を開催

2020年7月17日（金）午後1時半～3時半、研究活動・教育向上委員会（幹事校：国際医療福祉大学）が担当して、オンラインを利用した「新型コロナウイルスに伴う実習・演習等の対応に関する情報交換会」を開催しました。

各大学ともオンライン授業や対面授業との併用等工夫をしていますが、特に演習や実習については様々な課題があることから、これらを中心にした情報交換を行いました。当日は、13大学28名の参加者に加え、日本ソーシャルワーク教育学校連盟の事務局の皆様にも参加いただきました。

以下、概要を報告します。

I. 日本ソーシャルワーク教育学校連盟緊急調査（第2回）結果の報告（速報）

当初予定にはありませんでしたが、直前にソ教連が新型コロナウイルスの影響に関する第2回調査を行ったことから、急遽小森事務局長にお願いして調査結果（速報）を報告いただきました。

第1回調査（4月30日締切り）では、実習実施について「6月以降に判断する」「国から実習の代替措置の内容が示されたら判断する」「未定」が相当数ありましたが、第2回調査では各大学とも概ね方針が確定したことや、新型コロナウイルス関連で4分の3の学校で実習予定先から実習実施を断られている（意向を含む）ことなどが報告されました。また、今回は教員の業務量と負担感についても調査しており、いずれも増えていることが明らかになりました。

なお、ソ教連の第2回調査結果は同連盟のHPにアップされているので、詳細についてはそちらを参照して下さい。

II. 情報交換

あらかじめ参加者から簡単なアンケートを提出していただき、その記述内容も参考にしながら、次の3点について情報交換を行いました。

1. 授業全般の実施状況や課題等

今回全国から参加いただきましたが、各大学とも地域の感染状況との関係で登校実施のタイミングに苦労していることが分かりました。例えば、オンライン授業から全面登校に切り替えたものの地元で感染者が増えたために再度オンラインに切り替えた大学や、登校開始を予定していたが近隣の他大学が複数の感染者を出したことから行政から延期を求められた大学などがありました。

登校（全面及び一部の両方あり）により授業を実施している大学では、学生の健康チェックを紙ベースやメール報告で行ったり、学生が自ら机を拭くなどして感染予防を徹底したり、同じ講義を2回実施することで受講者を半分にして密集を防ぐなど、様々な工夫が行われていることが分かりました。また、コロナ拡大以前から一部でオンラインの授業システムを構築していた大学では全面オンライン授業への移行がスムーズにできたことや、オンライン授業の実施に伴って、障害のある学生に対する個別的な配慮を他機関の協力も得ながら行っている事例も報告されました。

2. 演習の実施状況や工夫、課題等

演習を登校で行っている大学では、マスクやフェイスシールドの着用、学生間の距離などに配慮しながら授業を行っていることが報告されました。

演習をオンラインで行っている大学からは、リアルに顔や声の表情を通して感情の動きを読み解く面接をすることが難しい、という声があった一方で、事前に事例の資料を送ったり役割分担等をした上で演習に臨むことで、対面での授業に近い形で教育できていると思う、という声もありました。

オンラインでの演習の効果（学生の理解度）に関しては、過去に対面での演習によってロールプレイ等を行った経験がある学生（高学年）であれば、オンラインでの演習でも理解は深まるが、これまでそのような経験が全く無い学生（低学年）の場合、最初からオンラインでロールプレイ等をしてイメージが形成できないようであるとの意見がありました。

3. 実習の実施見通しや対応方法等

多くの大学で、早い時期の実習日程を後ろにずらしたり実習期間を短縮するなどの工夫によって、一定期間の学外実習が実施できるよう模索しています。一方で、すでに地域の感染状況の影響によって学外実習を断念して学内実習への切り替えを決定した大学や今後一部は切り替えて実施する予定の大学もあります。

この場合の学外実習に替わる学内での実習授業については、どの大学も現在検討中とのことでしたが、概ね、実習指導者になっている社会福祉士など現場の方々に協力をいただいてオンラインで現場の話を聞いて理解を深めたり、具体的な援助の事例を聞いて学生がディスカッションするなど、なるべく社会福祉士の活躍する現場感覚に近づく方法を検討していることがわかりました。また、可能であればオンラインで当事者（施設の利用者）の話を聞くこともしてみたい、という声もありました。

4. その他

その他、参加者からは、オンラインの環境によって学習に差が出ている問題や、特に障害のある学生にしわ寄せが生じている問題、今後、経済的な面で苦境に陥る学生が多く出てくるのではないかという危惧等が出されました。

最後に、今後長期間新型コロナウイルスの感染が続くことも考え、制約された条件下で最大の効果をあげる教育手法等を継続的に開発、検討していく必要があり、当協議会としても今後ともこのような情報交換の場を設定していきたいと幹事校から挨拶をして情報交換会を閉じました。